

東京都現代俳句協会会報

発行人 山本 敏倅
発行人所 東京都現代俳句協会
〒121-0813 足立区竹の塚1-28-17
今野 龍二
TEL-FAX 03-3859-9304

私の俳歴「都区協愛」

副幹事長 小高 沙羅

私が俳句という言葉に耳にしたことを思い出すとまだ小学生になる前のこと。祖父の句碑の除幕式がありその幕を私に引くように言われたところ、最初はいやだと断わりそれなら隣のたかちゃんに頼むからと一悶着の末、結局私がその役を果たしたと、後に祖父に聞かされた。生家の前にあるその句碑を眺めながら大人になった。

それからの年月はあつという間に過ぎ、子育てでも終わったある日何かを始めたいと思っていたところ板橋区の広報の俳句募集の記事が目止まり鷗座に入会した。

あれから何と二十九年私は俳句の虜になってしまった。五七五が楽しいことは勿論、俳

句の仲間の何と温かいことか。一言でいえば、いい人ばかりである。他の習い事にもいくつか手を出したが、いずれも長続きはしなかった。殊にこの都区協にはその思いが深く私はこれを「都区協愛」と呼んでいる。この二十九年の間、二〇〇七年頃からの四、五年兜太伊東俳句大学塾でも学ばせて頂いた。

金子兜太先生が文化功労者となられ、その祝賀会にも参加することが出来、すっかり兜太ファンになっていた。句会では兜太先生のお話をひと言も聞き逃すまいという熱気ムンムンの空気を今も忘れない。その後、高崎のカルチャーにも参加し、その時の兜太先生の選評の一例は、父連れて石垣島の箱眼鏡 沙羅

「これは素朴だが、いい句だ」
百歳までの節目といえは蓬餅 沙羅
「これでは百歳の日野原先生に失礼だ。百歳

が目標といつてはだめだ。百歳はひとつの節目蓬餅とすればいい」と添削。

二〇一七年十一月二十三日帝国ホテルでの現代俳句協会七十周年式典でお目にかかったのが最後となってしまった。お別れはあまりにも突然三ヶ月後の昨年二月二十日だった。

悲しみの中私たちの結社ですぐに一泊二日の秩父の兜太句碑巡りを実行した。その句碑の一部は、

夏の山国母いて我を与太という 兜太
裏口に線路が見える蚕飼かな 兜太
よく眠る夢の枯野が青むまで 兜太
曼珠沙華どれも腹出し秩父の子 兜太
おおかみに螢が一つ付いていた 兜太
などである。

特に印象に残ったのは榛神社にある「おおかみ」の句碑だ。兜太が出征時に武運長久を祈願した村社で重さは二トン以上あり秩父の紫雲石で町内最大といわれている。おおかみと螢の対比が何とも面白い。昨年の夏、

この暑さ兜太の暑さ塩舐める 沙羅
この句に松田ひろむ先生より「彼女は暑くても寒くても兜太なのだ」との評。これからもまだまだ続けたい俳句である。

東京都現代俳句協会
平成三十一年度定時総会
 一句持寄句会・懇親会
 平成三十一年三月九日(土) 文京シビックセンター

協句俳現代区
定時総会

 現代俳句協会



松澤雅世会長

雨続きの中、心配することもなく晴天に恵まれ、六十八名の参加。来賓として、柏田浪雅現代俳句協会幹事長、吉村春風子東京多摩地区現代俳句協会会長、川村智香子神奈川県現代俳句協会副会長、渡辺澄千葉県現代俳句協会副会長の臨席を賜った。定刻にやや遅れ小高沙羅副幹事長の司会により開始。まず山本敏倅幹事長より力強い開会宣言。続いて松澤雅世会長からの挨拶。総会への出席の御礼、来賓の方々への御礼を述べられ、現在の都区のおかれている状況並びに現代俳句協会の厳しい現状について話された。

そして来賓の方から挨拶。渡辺澄副会長の都区協総会への出席が叶ったことのうれしさが印象的であったが、やはり全体的には協会がイメージの報告が目立つものだった。続いて司会者の一任で議長に石口榮氏、副議長に石井誠子氏が選出されいよいよ議事へ。

- 第一議案 平成三十年度事業報告
 - 第二議案 平成三十年度収支報告
 - 第三議案 平成三十一年度事業計画案
 - 第四議案 平成三十一年度収支予算案
- 会計監査報告
- 第一・三議案は今野龍二総務部長、第二・四議案は石垣久良会計部長、会計監査は醍醐鉄哉監査役により報告がなされ、すべての議案が満場の拍手により滞りなく承認された。青木栄子副会長の閉会の辞で総会は無事終了。休憩を経て、一句持ち寄り句会へ。ここか

らの司会は今野龍二総務部長。選句の後、現代俳句協会会長で「陸」主宰の中村和弘先生の「新興俳句について」と題した講話。昭和六年から同十五年までの十年間の反伝統・反「ホトトギス」を旗印に近代的革新をめざした俳句運動を三期に分けてのお話。「無季容認」「超季」「戦火想望俳句」などの言葉。また西脇順三郎や「戦艦ポチョムキン」のエイゼンシュテインにも言及。

講話の後、櫻木美保子・瀬藤芳郎の両氏による披露、そして特別選者の特選句に短冊授与、特に来賓の特別選者からは丁寧な選評をいただいた。成績発表は長谷川はるか事業部長より、一位から三十位まで豪華賞品が授与された。

六時からは栗原かつ代企画部長の音頭取りで懇親会。松田抱空副幹事長からの開会の挨拶、山中正己常任顧問の乾杯の発声。しばしの歓談。対馬康子現代俳句協会副会長のお言葉をいただき、そして余興として火星一座(高橋透水、大山実知子、上野貴子、中内火星)による都区協恒例のビンゴ大会。最後はスマートに佐賀賀正美副会長の閉会の辞でお開きとなった。

《特別選者特選句》

松澤 雅世 都区協会長 特選
 ほろ酔うて尻尾が出そう春の月 石井 誠子
 中村 和弘 現俳協会長 特選
 ものの芽に水音種田山頭火 青木 栄子
 柏田 浪雅 現俳協幹事長 特選
 青き踏む若き兵士の征きし道 渡辺 澄
 吉村春風子 東京多摩現俳協会長 特選
 茎立や本気で歩いて骨貯金 白石みずき
 川村智香子 神奈川現俳協副会長 特選
 亀鳴くやりユウグウ星の土けむり 櫻木美保子
 渡辺 澄 千葉現俳協副会長 特選
 雑段のうしろは絶壁風の音 川村智香子



中村和弘会長の講話の様子

青木 栄子 副会長 特選

蛇穴を出てゆき敗者復活戦

山本 敏倅 幹事長 特選

機関車に太古のごとき氷柱かな

山中 正己 常任顧問 特選

菜の花や北方領土岬の灯

松田ひろむ 顧問 特選

うかつにも上座に座る雛の宴

佐々木いつき 顧問 特選

機関車に太古のごとき氷柱かな

ダイゴ鉄哉 監査役 特選

原発なき未来図ひとつ風の蝶

石口 榮 議長 特選

不揃いの笑顔をならべ卒業す

石井 誠子 副議長 特選

忌日とは心を寄せて寝るおほろ

《参加作品》(互選高点三十句・以下順不同)
 1 蛇穴を出て元号派西暦派 石口 榮
 2 不揃いの笑顔をならべ卒業す 瀬藤 芳郎
 3 春光を帰れば誰もいない家 今野 龍二
 4 雑段のうしろは絶壁風の音 川村智香子
 5 ゆつくりと踏めば応へる春の土 山中 正己
 6 原発なき未来図ひとつ風の蝶 鈴木 光子

赤澤 敬子

中村 和弘

塩田千代子

山戸 則江

中村 和弘

鈴木 光子

瀬藤 芳郎

桑田 真琴

7 平成の新聞括る春休み

8 水平線を吸い上げているヒヤシンス 長峰 竹芳

9 ほろ酔うて尻尾が出そう春の月 石井 誠子 飛水百合子

10 陽炎の中心さがし老いにけり 山本 敏倅

11 亀鳴くやりユウグウ星の土けむり

12 茎立や本気で歩いて骨貯金 櫻木美保子

13 ものの芽に水音種田山頭火 白石みずき

青木 栄子



3・11の被災者に黙祷がおこなわれた



懇親会での様子

14あの人もこの人も去り桜咲く 宮 沢子
 15平成の端でふらここ微晩年 古川 塔子
 16青き踏み若き兵士の征きし道 渡辺 澄
 17忌日とは心を寄せて寝るおぼろ 桑田 真琴
 18老梅や支えを借りて龍となす 讚岐 幸江
 19東京の遊びに飽きず青き踏み 小高 沙羅
 20春光を縦糸にして編む年号 畝守 裕子
 21白鳥の飛沫となりて帰るかな 松澤 雅世
 22日の恵み風の励まし青き踏み 吉村春風子

23鍵穴の向こうの世界日脚伸ぶ 北村真貴子
 24菜の花に気づけば空が笑ってる 上野 貴子
 25災害の荒地次々地虫出す 宮川 夏
 26菜の花や北方領土岬の灯 塩田千代子
 27一つずつ抱く青空しゃぼん玉 広田 輝子
 28三月や波また波の果てに家 栗原かつ代
 29蛇穴を出てゆき敗者復活戦 赤澤 敬子
 30母いればこそこのふるさと田螺和 石口りんこ
 にぎり飯春のせせらぎ聞きながら ダイゴ鉄哉
 ご破算で生かされさくら好みなる 松田 抱空
 梅日和少女押しくる車椅子 森田 幸子
 張り替へし三味に津軽の春弾け 山口 昭義
 地虫出づ右も左も玻璃のビル 林 暁兵
 望郷の汽笛ただよう海龍 江原 玲子
 啓蟄へ半歩踏み出す誕生日 石井 長子
 こんぼこのかんばせほくり梅は紅 五十嵐秀山
 花を待つ九日あしたアサツテは 松田ひろむ
 電話ひとつつ鳴らぬ留守番初音かな

長谷川はるか
 鬼やらふ豆の行方や風の街 小林貴美子
 春シヨールなで肩の上へ鎧めく 千明 素子
 うかつにも上座に座る雛の宴 山戸 則江
 「みつをください」凍臈指で書く 柏田 浪雅
 海を向く震災遺構なごりゆき 小林 和子

江の電や昭和の音と春の海 石綿 久子
 鼻先の男のピアス万愚節 近田 吉幸
 体内の龍ポデイブローじわじわ 西本 未未
 いつまでも笑い止まらぬ花の昼松本まり子
 一人静群れ咲きかすかなる孤独山崎 百花
 機関車に太古のごとき氷柱かな 中村 和弘
 訪ぬれば桜の微熱ふつつと 中内 火星
 春陰に向かう翼の迷いなく 磯部 薫子
 茶番なるゴーンの保釈春愁ひ 高橋 透水
 兜太立つ平和を想ふ柳の芽 若林ふさ子
 花桐の本郷裏町たもとほる 大山実知子
 癌告知され白梅の白を知る 東金 夢明
 平成の夢をとじ込め卒業歌 岡崎 久子
 地虫穴出て鉄棒に十指吊る 佐々木いつき
 寒ぼたんもうこれまでかいや違ふ 栗原 節子
 三・二五恨みの日とや卒業迎ふ 二村 博三
 秩父音頭一句一句や兜太の忌 今田 克
 もろもろの哀しみが降る三月は 水落 蘭女
 前向いて八年の日々三月来 長尾 幸子
 ひと駅を歩いてしまふ木の芽晴 石垣 久良
 岡惚れの鶯餅や山脈と 斎藤 藍
 沈丁の香を乱しゆく令夫人 今村たかし
 追ひかけるそこは地の果て花の雲 塚越 美子

(長谷川はるか記)

Bブロック吟行会

平成三十年十二月十四日

於 ライフコミュニケーション西馬込

吟行地 品川区高輪・泉岳寺

(赤穂浪士討ち入り)

吟行地と句会場との距離を考えていた時に、ちょうどCブロックの吟行会で句会場へ歩いていった時のことを思い出し、泉岳寺と地下鉄で結べばと考え、会場が西馬込駅近くに取れば(義士会)と、まず会場の確保が先決で十二月十四日を駄目元で申し込みをしただけで、一年に二回の吟行会をすることになった。年の暮の忙しい時期にもかかわらず、39名の参加者を得た。また「鷗座」主宰松田ひろむ先生に講話をお願いし、当日「其角と芭蕉 忠臣蔵と史実」という題で講演をしていただいた。選句披露(広田輝子・ダイゴ鉄哉)、特別選者の講評をいただき成績上位者に賞品が授与され、松田抱空氏の閉会の挨拶でお開きとなった。

その後、会場をかえ懇親会に移り盛大の内に師走の吟行会も無事に終えることができ、参加者皆様のご協力ありがとうございました。

した。

(ダイゴ鉄哉記)

《特別選者特選》

松田ひろむ 顧問 特選

義士会や切腹最中でふ味は

青木 栄子 副会長 特選

義士の日や朝の習いの水一杯

ダイゴ鉄哉 監査 特選

死してなお序列十二月十四日

栗原 節子 副幹事長 特選

冬空へ四十七色の香煙

松田 抱空 副幹事長 特選

義士の日やいのちの重さおもしろ

小高 沙羅 副幹事長 特選

白山茶花四十五を義士と呼び

長谷川はるか 事業部長 特選

仮名まじる駅の槌おと討入り日

中内 火星 広報部長 特選

十二月十四日吟行会は出来心

栗原かつ代 企画部長 特選

討入に遅れて来たが薬喰

今村たかし 研修部長 特選

襟元の毛皮くすぐる討入り日

讚岐 幸江

長谷川はるか

白石みずき

青木 栄子

小高 沙羅

栗原 節子

栗原かつ代

杉山 邦夫

ダイゴ鉄哉

松田ひろむ

讚岐 幸江

春の吟行&通信句会のご案内

実施日 令和元年六月三日(月)

吟行場所 白山神社(受付後、自由吟行)

《見どころ》「文京あじさいまつり」が6

月中旬に開催され、境内や隣接する白山公

園では約三千株の多様なあじさいを堪能で

きる。会期中は富士山を模した富士塚が公

開され、歯痛止め信仰で知られる白山神社

ならではの「歯ブラシ供養」や緑日など、

さまざま催しを実施される。

集合 午前十時・白山神社正門鳥居前

(東京都文京区白山五三一一二六)

・地下鉄都営三田線・白山徒歩3分

・地下鉄南北線・本駒込 徒歩5分

参加申込 事務局宛 葉書・FAX・Eメール

参加者住所・氏名・電話番号明記

申込締切 六月二日(日)

会費 六千円(通信費・賞品代)

申込締切 六月二日(日)

出句締切 六月十日(月) 必着

選句 事務局宛 葉書・FAX・Eメール

後日参加者に作品集を送付し、選

句していただきます。互選、特別選

者選により、入賞者を決定します。入

賞者に賞品を送付します。

事務局 企画部 栗原かつ代

〒167-0052 杉並区南荻窪 一・二九・二二

TEL・FAX 03-3333-2330

Eメール hirunzame@gmail.com

宮川 夏 組織部長 特選

首洗い井戸から寒気ひとに蹤く 栗原 節子

《参加作品》 高点头

- 1 冬の日の等しくそそぐ義士の墓 広田 輝子
- 2 死してなお序列十二月十四日 青木 栄子
- 3 白山茶花四十五を義士と呼び 栗原かつ代
- 4 戒名に刃の一字や冬晴れて 赤澤 敬子
- 5 義士まつりちよつと手ぶらで来てみたが 小高 沙羅
- 6 義士会のころね知るや異邦人 湯澤喜久保
- 7 義士の日や新駅造る重機音 杉山 邦夫
- 8 平成の文字確とあり義士幟 江原 玲子
- 9 義士の日や朝の習いの水一杯 白石みずき
- 10 泉岳寺吉良の首の井散る木の葉 長尾 幸子
- 11 少年の思い真つ直ぐ主税梅 北迫 正男
- 12 ものふの忠義遙かに冬ざる 宮川 夏
- 13 平成の寒風すさぶ泉岳寺 大塚 真紀
- 14 討入に遅れて来たが薬喰 松田ひろむ
- 15 首洗い井戸から寒気ひとに蹤く 栗原 節子
- 16 薄枯る風のかたちを失はず 永井 良和
- 17 十二月十四日吟行会は出来心 ダイゴ鉄哉
- 18 冬晴れや黄泉に浪士の荒魂 五十嵐秀山
- 19 義士の日や切腹最中の人だから 讃岐 幸江

20 冬晴の泉岳寺にゐて吉良びいき 上野 英一

《参加作品》 順不同

- 義士の日のレクイエムかしら呼子笛 三上 孝
- 山眠るまでは赤穂の風かしら 松田 抱空
- どの墓もみな宝船義士祭 今村たかし
- 陣太鼓揚げ土産実なんてん 小林チエ女
- 眉八の字の老紳士いて討入日 中内 火星
- 小春に抱かれ水琴窟のうたたね 小湊こぎく
- 義士の香煙自由な前頭葉 櫻井 了子
- 義士の墓みかん二つ輝きて 水田千恵子
- 冬もみじ空の隙間の増えている 櫻木美保子
- 門前に切腹最中冬紅葉 石井 誠子
- 討入りもうまし切腹最中ナウ 山中 裕子
- 義士の日や外国の声様々に 山中 勝美
- 香煙が手足をつつむ小春の日 欽守 裕子
- 義士会や一人づつ墓あるは佳し 長谷川はるか
- 義士祭の香煙むかう潮路かな 石田 弥生
- 義士祭の煙のなかのワンカッパ 高橋 透水
- 武士の墓を抱きて冬もみじ 大山実知子
- 似た人の気になる小春泉岳寺 大橋 愛子
- 討入りの思いははるか枯葉舞う 細谷 和夫

(青木栄子記)

Aブロック吟行会のご案内

左記の要領で実施いたします。お誘い合わせの上、ご参加ください。

記

- 実施日 令和元年五月十四日(火)
- 吟行地 西新井大師(境内の牡丹・芍薬、お大師様など)
- 句会場 西新井ギヤクシティふおーらむ 3F 多目的室 2
- 足立区栗原1-3-1
- 受付 十二時より
- 講師 こしのゆみこ先生(豆の木代表)
- 出句 属目二句 十三時締切
- 参加費 千円 三十位まで賞品あり
- 懇親会 十七時より会場未定四千円
- 申込 四月二十日締切
- 大山実知子 Tel: 03-3912-9388
- Fax: 03-3912-9388
- 〒114-0002 北区王子1-23-1-704
- 欽守 裕子 Tel: 03-3967-7975
- Fax: 050-3390-7540
- 〒115-0051 北区浮間4-31-7-602
- 今野 龍二 Tel: Fax: 03-3859-9304
- 〒121-0813 足立区竹の塚1-28-17
- 代表: 大山実知子

「ブロック自慢」 A ブロック

諸家

近詠

Aブロックは足立区、荒川区、北区、葛飾区、墨田区、台東区、文京区、江戸川区、江東区、中央区、千代田区と4ブロック中では最多の11区からなります。

お江戸情緒の色濃く残る地域であり、飛鳥山公園、上野公園など古くからよく知られた観光スポットの他、東洲江庭園（足立区）、花畑記念庭園（足立区）、江戸川平成庭園（江戸川区）など小さいながら本格的な日本庭園がたくさん。

またスカイツリーは墨田区です。そして来年の五輪の競技施設の多くが江東区。

大山実知子（ブロック代表・北区）

黄梅や雨の二駅乗りすこす
いつよりの老と呼ばれる春深く
草焼の匂ひ入り来る路線バス

長谷川はるか（文京区）

筍を掘り起こしては寝かしをり
衆目に疲れ切つたる桜かな
地下鉄の春光まみれなる四ッ谷

山本 敏倅（荒川区）

雪解川大地を鳥の貌にする
魚座へとまっすぐ伸びる梅の枝
空間は梨の花から水になる

赤澤 敬子（文京区）

薄紅梅踊り場のあり女坂
盆梅やだんだん無色の夫となる
春昼の麩菓子に黒く鬼子母神

今野 龍二（足立区）

隠岐秋のふたりの水脈を置いてゆく
今朝雨の隠岐は鳥後の蛇の衣
おぼろより出て来る隠岐のおぼろかな

小林貴美子（文京区）

鬼やらふ豆の行方や風の街
那須春曉馬に三つの歩き方
母偲ぶ卓袱料理と海鼠の酢

千明 素子（北区）

野球帽湯屋前にあて寒明くる
のどけしや路地より出づる京ことば
口重き父の手のひら桜貝

鎌守 裕子（北区）

探梅や繋がれた手が熱くなる
青き踏む号をあらたにする地平
反骨をぶらさげている目借時

石垣 久良（荒川区）

青き踏むダンスのりずむ雲に乗る
啓蟄や釣竿出して手入する
春の雪警戒心を呼び覚ます

神尾 久雄（台東区）

骨二本病みて労わる秋扇
何語るでもなき湯屋の秋灯し
転生を深みに託し破れ蓮

栗原 節子（江東区）

平和とはこんなことかも雛あられ
ささらぎの影をゆらりと三の橋
三月の淡き色から消してゆく

第十九回 高田馬場冬期句会報告

平成三十一年一月八日(火)

兼題「天狼星・シリウス」・席題「直」

今回は「天狼星」「シリウス」で、かなり難しい兼題でしたが結果は豈図らんや力作が揃いました。一字詠み込みの「直」も然り。嬉しいことに初参加の方も毎回のようにおられ、三十名の参加があり、懇親会も十七名参加して下さいました。

まだ席に余裕がございますので参加お待ちしております。

《高得点句》

- 1 寒風を割って航路の一直線 佐々木いつき
- 2 シリウスと息通わせて九十へ 松田ひろむ
- 3 鯛焼の半分づつの伸直り 白石みずき
- 4 正直もときに恐ろし初鏡 青木 栄子
- 5 天狼星地には兜太の詩魂満つ 鈴木 光子
- 6 アリバイは夕べ天狼見しとのみ 上野 英一
- 7 単三を直列にして木兔鳴けり 山本 敏倅

《参加作品》

主婦業を愚直に生きて初山河 磯部 薫子

直言は憚りながら老いの春
山河いま書き直されて雪積る
天狼や地球はすでに負の遺産
シリウスのかすかな音を聞きもらす

山中 正己
櫻木美保子
高橋 透水

シリウスや銀河鉄道停車駅
天狼や目指すものある子を送る
まっ直ぐに目線の届く初芝居
シリウスの真下を灯す獣医学部
シリウスへ八光年のヒール音
膝固くして天狼星へ離陸する

大橋 愛子
荒井 良明
広田 輝子
小高 沙羅
赤澤 敬子
松澤 雅世
栗原かつ代

直会はずでにび割れ女正月
元朝の眞直にくる車椅子
天狼や別れの言葉いいよどむ
地も人も均せば素直大枯野
シリウスや天にも格差あるのかも
青く白く片恋の日のシリウスよ
天狼星や大和三山呼応する

今野 龍二
棚橋 麗未
江原 玲子
西本 明未
瀬藤 芳郎
北村真貴子
宮川 夏

黒髪豊かなる日よシリウスよ
結果門天頂統ぶる天狼星
電飾に白旗あげる天狼星
天狼や北方四島二島となる
このちの日は天狼のきらめきに

相沢 幹代
近田 吉幸
山口 紀子
ダイゴ鉄哉
欽守 裕子

(宮川夏記)

高田馬場句会「夏」の御案内

日時 令和元年七月二日(火)
午後一時より四時半

会費 千円(懇親会費三千元)

場所 JR高田馬場駅前Fビル8階
(二階がドンキホーテのビル)

兼題 「祭」席題は当日掲示

兼題 二句投句・互選六句

参加申込 宮川夏(定員三十五名)
Tel 080-3452-2577
Fax 03-3339-9841

編集後記

▼「平成最後」が続いた。この会報も平成最後の号である。そして新元号が発表された。次号は令和最初の号となる。そんなに感動はない。

▼石口榮氏の俳句「蛇穴を出て元号派西暦派」これを機に西暦派が一気に増えるかもしれない。

▼とまれ、令和になっても、協会員の思いは仲間が増え元気ではないものだ。(中内火星記)

広報部・編集室
〒150-0013 渋谷区恵比寿
二二三-一五二〇二 中内火星方
Tel&fax 〇三-三四四〇一四四七九
Eメール ham@mx3.ttcn.ne.jp